

## 第4回 野津原中学校区適正配置地域協議会 会議要旨

日時：平成26年11月27日（木）19:00～20:30

場所：野津原市民センター 大会議室

○出席者 29名

### 1. 開会のことば

- ・佐藤副会長より、開会のことば。

### 2. 会長あいさつ

- ・分藤会長より、開催にあたってのあいさつ。

### 3. 議事

#### 1 今後予想される日程（案）について

- ・これまでの協議で出された意見を元に作成した、今後予想される日程（案）を提案。

<主な質疑応答・意見>

【委員】27年度で報告書をまとめて提出というのはいいと思うが、その中にある程度こういった方向で行くというのを押さえた方がいいのではないか。

【議長】この協議会は統合までの協議会であり、その後の具体的な方策については、開校準備委員会で考えていった方がいいのではないか。

【事務局】報告書の中に新しい学校を作るとか、校歌等を新しくするとかいうことが入ってくれば、それを元に準備委員会を作ってやっていくという形になるかと思う。報告書についてどういう内容にするかは、まとめる段階で確認をとらせていただきたいと考えている。

#### 2 統合に伴う通学の支援について

##### (1) 通学に係る調査結果について

- ・各学校で行った、通学に関するアンケートの結果について説明。  
(質疑応答なし)

##### (2) 基本的な考え方について

- ・現在考えられる通学の支援について説明。

<主な質疑応答・意見>

【委員】スクールバスは考えていないということだが、今市から東部小学校までは標高差が大きい。特例でスクールバスを出すとかはできないか。

【専門委員】スクールタクシーと路線バスを利用したスクールバス、市がバスを購入して運営というのがスクールバスの定義だが、提案としては直営は考えていない。

【委員】なぜ直営のスクールバスを考えていないのか。

【専門委員】以前、直営のスクールバスはあったが、大分市の進める行政改革アクションプランの中で、費用相対効果に問題ありということで外部から指摘を受け廃

止となった。行政改革で廃止した制度のため、復活させることは非常に難しいと考えている。

【委員】この地区は雪が降り、路線バスも通らなくなったりする。だから、チェーン等の設備をしたスクールバスを運行させることが、全小学校の子どもが通学できる方法ではないかと思う。

【専門委員】スクールバスを直営でしたとしても、児童生徒を安全に送り迎えするのが第一である。直営だから強行して雪の中を進むというのは大分市の責任において非常に難しいと思う。また、路線バスが止まるというのは、安全に乗客を運べないということなので、市直営であっても動かすのは難しいと思う。

【委員】支援の期間が無期限ではないということだが、どういうことなのか。

【事務局】統合に伴い、この校区は将来的に一つの校区になり、ある程度いろいろな環境が変わってくるかと思う。一つの校区となったとき、たとえ中部小の子より遠くから通っている東部小の子がいたとしても、今までの支援がそのまま続いてしまうことになる。ある程度の年限を考えた上で支援していきたいと思っている。

【委員】東部小には校区外から通っている子どもがいるが、その子には支援を認めるのか。距離の話も出ていたが、中部小の子どもより遠くから通っている東部小校区の子どももいる。東部小校区の子どもは支援の対象にならないのか。

【事務局】対象者をどうするかというところは、協議をしていただくことになる。

【委員】東部小に隣接校選択制や学区外通学できている子どもがいる。今は補助の対象にはなっていないが、統合したときには一つの校区として見て、補助の対象になるということでもいいのか。

【事務局】今は自己都合で学区外に行っているので補助の対象外だが、今後校区が一つになれば、学区外という枠がなくなるので、距離等で判断させていただこうと思っている。

【委員】統合に伴う通学の支援は、いつか通常の遠距離通学の補助に移行するということがいいのか。標高差や悪路を通過して来るとかいったことは加味しないということか。

【専門委員】高低差や気候等も考慮し、統合後距離が何 km 以上の人が支援を利用できるかは協議して決めていかなければならないと思っている。また、期間についても一応決めておいて、状況を見てまた協議しようということも考えられる。一定の期間を決めて、それが終わったら終了という決め方もあるだろうが、時期が来たら再度協議し、変えていくというのも一つの考え方だと思う。

### (3) 協議

・各校区で取りまとめている通学の支援に関する要望や意見等を発表し、協議を行う。

<各校区の意見>

【中部小校区】保護者と地域の方を対象に、通学についての支援や要望、心配なことや学校運営に関する心配事等についてアンケートを行った。通学方法については、公共機関の利用が望ましいということが挙げられている。特にその中でも、

市運営のスクールバスやタクシーの必要性が保護者と地域の方から多く出されている。通学にかかる費用については全額公費負担、もしくは一部負担という要望があることがわかっている。また、学校の跡地利用等については、今後も地域の方々が利用できるような施設を望むという意見が寄せられている。中部校区では、統合について「納得いかない」「再考してほしい」という声も多くある。こうした率直な意見に対し、今後必要な限り、統廃合は子ども達のため、地域の方のためにいいものになるよう協議会で協議し、皆様へ説明をする必要があると思う。

【西部小校区】西部ではスクールバスを考えていたのだが、仮に通学タクシーで行った場合、全員乗れる台数があるのか。また、遠距離になるので子どもを乗せてあっちこちに行くのはやめてほしい。低学年は運転手に話しかけるのが難しいと思うので、誰か、保護者とか見る人をつけるとかいうことをしてほしい。ただ、基本的にはスクールバスをお願いしたい。

【東部小校区】東部小には校区外から来ている子どももいるので、スクールバスみたいなものができるのであれば利用させていただきたい。学区外通学をしている子どもがかなりいるので、今後どういう風にしてもらえるかが大事だと思う。東部小の校区内でも、福宗一のように学校までの距離が竹の内からよりも遠いという現状がある。また、辻原とかは通学で使う主な道路を通る児童数が少なく、自家用車通学をすることで安心しているような状況でもあるので、スクールバスを暫定的に出していただきたいところでもある。

#### <主な質疑応答・意見>

【委員】もし、路線バスを利用するという事になったときは、今より本数は増えるのか。

【事務局】路線バスについては、協議の中で校区が変わってくるので、その中で時間帯が変わるといった状況があり、利用される方が多くいられるということであれば、市としてもバス会社と協議していきたいと思っている。

【委員】結局、路線バスと決まってから協議するという事か。

【事務局】この時間帯にこのくらいの人に乗るという数字がある程度必要で、それをもって、お願いできないか交渉することになるかと思う。

【議長】タクシーの場合、始発点は停留所からになるのか、家からになるのか。

【事務局】それについては協議をさせていただきたいと思う。例として、木佐上小校区では学校間をつなぐ形で、という意見を出していただいている。

【専門委員】運行のやり方や対象児童をどうするか、タクシーが玄関口まで迎えに行くのかというようなことについては、協議させていただく。

【委員】子どもが慣れるまでは保護者が送って行きたいという方もいるかと思う。幼稚園のときは途中からバスを利用することはできないということだったが、今回は可能になるのか。

【専門委員】先にスクールタクシーを使うという登録をし、慣れるまでは保護者が送るという扱いをしてもらえればいい。

【委員】単純に通学の距離が伸びる分にはいいと思うが、坂が問題である。あの高低差を1年生の子どもにずっと歩いて行けというのはどうか。そういった高低差などを加味することはできないか。

【委員】タクシーと路線バスをスクールバスにするというのを、両方とも出すというのはだめなのか。

【事務局】家庭によって、自家用車で送る方、スクールタクシーを使う方、路線バスを使う方があり、それに応じた補助を出す。補助をどれか一つに絞るというわけではない。ただ、スクールタクシー利用者がたった1人しかいないとかいうことになると、運行は非常に難しくなる。

【議長】補助の対象となる距離を、何 km か決めるのが一番いいのではないか。

【委員】距離より、地域ごとに考えて参考として出してみてもどうか。

【専門委員】「距離で切ってはどうか」「高低差を考えなければいけないのでは」「地区で指定してはどうか」とか、いろいろな考えが出たので、こちらとしても距離で考え高低差を考慮する何かいい方法がないか検討させていただこうと思う。皆さん方にもそれぞれ考えてみていただき、次回この内容について引き続き協議をしていただくということでどうだろうか。

【委員】タクシーと契約するときの料金は、距離で発生するのか、それとも乗車人数でか。近い人でもタクシーが通るのなら乗れるとかはあるのか。

【専門委員】タクシーは、3人乗っても4人乗っても運行料金は変わらない。つまり区間や距離による。途中で乗り降りもできる。

【委員】それなら、乗りたい人は乗ってもいいということにはできないのか。

【専門委員】その場合はタクシーの台数を増やす必要がある。ジャンボタクシーなので最大でも8人か9人しか乗れず、それを超える人数であれば台数が増え、その分料金も上がってしまう。

【委員】距離に関係なく中部・西部は無条件でタクシー等に乗れて、それプラス東部小校区も対象というのが一番いいのではないか。

【委員】距離については統合に伴う支援の切り替えの時期に話をしていた方がいいのではないかと思う。

【事務局】校区ごとに事情も異なるかと思うので、次の2月までの間に各校区に伺い意見交換をさせていただきたい。

○補助の対象となる条件について各々考えていただき、次回協議することを確認した。  
○各校区ごとに教育委員会と意見交換を行うことを確認した。

### 3. その他

- ・事務局より、地域協議会の次回の日程について説明する。

○第5回地域協議会を2月5日（木）の19：00～20：30、野津原市民センター大会議室で開催することを確認する。

### 4. 閉会のことば

- ・秦副会長より、閉会のことば。